

令和2年度 秋田県アレルギー疾患医療連絡協議会 議事要旨

日時 令和3年3月17日(水)  
18時から19時30分まで  
場所 Cisco Webex Meeting  
(秋田地方総合庁舎6階603会議室)

事務局	1 開会
三浦課長	2 あいさつ
事務局	3 出席者紹介 ・会議成立の報告 ・協議会についての説明
	4 会長及び副会長の選出 中山委員が会長に、山田委員が副会長に選出される
(以下、中山会長が議長となり議事進行)	
事務局	5 議事 (1) 報告 学校等におけるアレルギー疾患の対応について (資料1により学校保健調査の説明)
議長 (中山会長・秋田大学 大学院)	ほかに次のことを紹介 ・県教育委員会と県医師会の連携による食物アレルギー緊急時対応マニュアル、エピペン使用の指針作成 ・学校や就学前施設教職員等を対象とした食物アレルギー対応研修会の開催  県医師会と連携した取組を行っているようだが、県医師会からの補足等はあるか。 高橋委員、いかがか。
高橋委員 (県医師会)	県医師会では学校保健委員会の中に食物アレルギー小委員会を設置している。その委員長を千葉先生が務めていて、そちらでエピペンの使用方法などをまとめている。そのほか乳幼児のことは乳幼児保健委員会が対応している。学校でのアレルギー対応は上手くいっていると思うが、保育園や幼稚園等では生活管理指導表が今まで統一されていなかった。そのため学校と同じ対応を取ってもらうよう2年度にわたって県教育庁との懇談会でお願いし、だいぶ統一されてきてはいる。また今年度もお願いし、県から保育園等に個別に指導をしてもらい、保育園等の対応が統一されるよう頑張っているところ。
議長	食物アレルギーの取組、学校や園の対応など、これから盛り上げていこうということかと思う。 千葉委員はいかがか。

<p>千葉委員 (中通総合病院)</p> <p>議長</p>	<p>今後変わっていくところに期待したいが、現場からすると生活管理指導表にまた問題が出てきている。</p> <p>指導表はフォーマットが決まっているが、市町村によって中身を変え始めたところがある。医師はその様式に合わせて書かなければいけない。さらに保育園等では、各施設の独自の問題、環境によって指導表の設問を変えている。</p> <p>今は手書きで負担が大きい。フォーマットが同じであればPCで作成ができるので、各施設の意見も聞きながら、来年度整えていきたいと思っている。</p> <p>取組と課題がだいぶ見えてきた。</p> <p>生活管理指導表に関し、フォーマットが統一されていれば統計的なこともすぐ取れるので、重要な指摘だと思う。施設等の意見収集もしながら、よろしくお願ひしたい。</p>
<p>事務局</p> <p>議長</p> <p>千葉委員 (中通総合病院)</p> <p>議長</p> <p>早川委員 (秋田厚生医療センター)</p>	<p>(2) 協議</p> <p>①アレルギー疾患医療拠点病院の候補の選定について (資料2、4～7及び拠点病院の候補について説明)</p> <p>アレルギー疾患医療拠点病院の候補の選定ということで、本日の最も重要な協議となる。</p> <p>少し整理すると、資料4が拠点病院選定の要件、資料2・p3ポンチ図の都道府県レベルの拠点病院を考えていこうということ、p4が各都道府県の拠点病院の選定状況、資料7アンケート結果で各病院のリソースやパワーが示され、資料5はサポート等ということである。</p> <p>最初に質問や付け加えたいことなどお伺ひしたい。</p> <p>資料7のアレルギー疾患に関する調査に関して修正がある。</p> <p>Q3. アレルギー専門医療教育研修施設について、中通総合病院は小児科系の認定を受けている。</p> <p>また、右上の箱書き「Q5小児アレルギーエデュケーターが在籍している病院は県内になし」の部分について、中通総合病院には看護師が1名いるので、修正をお願ひしたい。</p> <p>資料2(厚労省資料)p3ポンチ図部分、国レベルで中心拠点病院は相模原病院と国立成育医療研究センターがあり、都道府県レベルでは総合病院Aで役割を満たせない場合は、他の医療機関と連携しながらやっていこうということであり、p4にあるとおり複数拠点病院があるところはこども病院が多い印象。</p> <p>それでは、委員の皆さんから意見や感想をお伺ひしたい。</p> <p>厚労省の「医療提供体制の在り方に関する検討会」で報告書の策定に携わったが、検討会メンバーに選ばれてくる大学病院であってもアレルギー専門医が全科揃っているところは非常に少なかった。専門医がいないと拠点病院になれないのかということでもかなり議論があったところであり、報告書では努力目標として書いている。</p> <p>策定において、秋田県ではやはり秋田大学医学部附属病院(以下、「秋田大学病院」)になってもらおうということで作っている。</p>

	<p>報告書は、全科に専門医がいなくても、今の段階で努力目標ということで認めようということで作成している。</p>
議長	<p>1施設で全ての診療科が揃うのは難しいため、複数の施設でスクラムを組んでいけたらよいのではないか。</p>
山田委員 (秋田大学大学院)	<p>アレルギー専門医の多いところと連携してやっていくということで、努力目標でよいと考える。 秋田県でもアレルギー疾患の医療体制がやっと整うということで嬉しく思う。</p>
河野委員 (秋田大学大学院)	<p>これまでの議論を聞いて、秋田大学病院で不足しているところは他施設で補い、県全体として診療体制をつくっていく形がよいと考える。</p>
植木委員 (秋田大学大学院)	<p>概ね同じ意見である。秋田大学病院には眼科のアレルギー専門医がいないが、アレルギー疾患を診ないということではないだろう。アレルギー疾患は複数の診療科にまたがるため、アレルギー専門医でなくても秋田大学病院の各科の専門医が連携していければよい。 アレルギー協会の委託で秋田県の事務局をしている。早川先生や千葉先生にお世話になりながら、毎年市民公開講座を開催してきた。この枠組と協力しながら継続していけたらよい。 今日は患者・家族会のもぐもぐの鷺谷さんもいる。患者さんと一緒にやっていくのが昨今の流れになっているので、医師の意見を押しつけるのではなく、一緒に学んだり良くしていくようなことができればよい。</p>
議長	<p>枠組についても具体的に意見をいただきたい。</p>
高橋委員 (県医師会)	<p>小児科の立場から、拠点病院は充実している秋田大学病院でよいと考えるが、本県の小児科の特性として、未熟児や悪性腫瘍、先天性疾患など重症の子どもが大学病院に集まるため、アレルギー専門医が大学に持続して所属し続けるのは難しい状況と思われる。そのため小児科のアレルギー疾患の紹介は千葉先生の所属される中通病院に依頼することが多い状況である。 秋田大学病院とは別に小児科分野での協力病院を設けてもらえたらありがたい。県で2か所つくることのできるのであれば、小児科は連携しやすい。</p>
議長	<p>高橋委員、具体的な施設はあるか。</p>
高橋委員 (県医師会)	<p>千葉先生のところでやっていただければありがたい。</p>
議長	<p>中通総合病院の小児科ということで意見をいただいた。</p>
小松委員 (県薬剤師会)	<p>薬局の薬剤師の立場から、秋田大学病院を拠点病院とした形で、それぞれの病院が協力していただければありがたい。 当薬局は日赤病院の門前にあるが、蜂のアレルギーのエピペンの</p>

	<p>対応や小児科での食物アレルギーを持つ子どもへのエピペンの対応が多いので、私たちも協力できればと思う。</p>
<p>河越委員 (県栄養士会)</p>	<p>秋田大学病院が中心になり、小中高の学校関係では事故につながりやすいため、小児科の千葉先生やかかりつけ医の高橋先生などとも連携して、学校で事故が起こらないように研修などの充実を図ってもらえたらよい。</p>
<p>鷺谷委員 (もぐもぐ)</p>	<p>食物アレルギーを持っている子どもを持つ親が中心になって活動している。</p> <p>先生方のお話にあったように小中学校では対応が進んでいるが、保育園等は私立化して園によってやり方が違うことにより、子どもがイベントに参加できないこともあり、保護者が辛い思いをしている。</p> <p>自分自身も食物アレルギーやハウスダスト等の鼻炎、結膜炎もあり大変な思いをしてきた。拠点病院の選定により、保護者や当事者の子どもにとって、完治したり、過ごしやすい環境の近道になるような治療を行ってもらえたら助かる。</p>
<p>田口委員 (仙北市保健課)</p>	<p>母子保健を担当している。乳幼児健診でアンケートを行うと、乳児期の食物アレルギーに関して保護者の8割が気にかけている。</p> <p>小児の場合は頻回な受診が必要となるため、拠点病院が整備されるのはよいことである。その中で拠点病院と身近に受診できる医療機関が連携していけたらよい。</p>
<p>議長</p>	<p>これまでの議論から、事務局提案の秋田大学病院を拠点病院の候補とすることについては、皆さんからご賛同いただけたと思われる。</p> <p>また、小児科は患者数や特殊性が高いことから、小児についての医療機関も拠点病院として整備した方がよいのではという意見もいただいた。候補は中通総合病院であるが、千葉委員から意見等あればお願いしたい。</p>
<p>千葉委員 (中通総合病院)</p>	<p>中通総合病院では、県内の負荷試験の半分以上を実施していると思われる。また、資料1の食物アレルギーやエピペンを処方されている人数のうち、当院でエピペンを処方している状況を見てみると、3割ほどであった。秋田大学病院で負荷試験を行うことはなかなか難しいと考えるので、小児分野で手伝えるところがあれば協力させていただきたい。</p>
<p>議長</p>	<p>全国均てん化してアレルギー疾患医療拠点病院を選定しようとなったのは、食物アレルギーで事故があったことも大きな引き金になっているだろう。</p> <p>食物アレルギーの運動負荷試験やチャレンジ試験はなかなかできない。以前、慈恵会医科大に勤務していたが、関東でも指定病院は小児科で、成人の内科ではそのような試験は数年に1回あるかないかのケースである。</p> <p>常に試験をできる体制があり、スキルを習得しているほか、難しい症例を診るのみでなく、親が相談等できるということも小児科がすごく重要なところだと思う。</p>

議長	<p>皆さんの意見をまとめ、アレルギー疾患医療拠点病院として、秋田大学病院と中通総合病院を候補としたいが、よろしいか。 (拍手をもって賛同)</p> <p>賛同いただけたので、候補として決めさせていただきます。</p>
事務局	<p><b>②その他</b> <b>【今後の県のアレルギー疾患対策の進め方について】</b> (資料3により令和3年度のスケジュールを説明)</p>
事務局	<p>そのほか、協議会で取り上げてほしい事項として、植木委員から予算を少しでも確保するための取組についてのご意見をいただいたが、令和3年度は協議会関係の予算しかないため、来年度の協議会で令和4年度に対策ができるよう検討をお願いしたい。</p> <p>中山委員からは、コロナが収まったら会場で市民公開講座を開催できればといった意見をいただいたので、そちらも令和4年度に開催できるように来年度の協議会で検討いただきたい。</p>
議長	<p>資料2(厚労省資料) p5に令和3年度の予算案がある。1つ目は学会へのサポート、2つ目は中心拠点病院へのもの、3つ目がリウマチ・アレルギー特別対策事業として、補助先が都道府県で9,000万円ほど、各都道府県200万円弱で各種事業や協議会等を行うもの、4つ目は研究事業となっている。がんに比べると予算が絞られているという印象。</p> <p>この中の3つ目が都道府県に用意されている予算ということでよいか。</p>
事務局	<p>そのとおりである。</p>
高橋委員 (県医師会)	<p>県医師会にあるアレルギーの委員会は、学校保健委員会の中の食物アレルギー小委員会のみである。アレルギー対策を行っていく中で、県医師会にこのような委員会があったらよい、このような対策をしてもらいたいといった意見があれば、理事会に諮っていきたい。いかがか。</p>
千葉委員 (中通総合病院)	<p>県医師会から話してもらった方がスムーズかもしれないが、県に対して、地震など災害時の食物アレルギー用食事の備蓄状況などや、対策がある場合はどのようなものであるのかなどを確認しておきたい。患者の方とも情報共有しておきたい。そういったことを働きかけていただけたらありがたい。</p>
高橋委員 (県医師会)	<p>そういったことを県の方でわかるか。</p>
事務局	<p>おそらく総合防災課の担当になるが、こちらではそこまで把握していないため、今後確認していきたい。対応していない場合、備蓄等の呼びかけは県医師会からしてもらった方が県の担当も動きやすいのではないかと思います。</p>

高橋委員 (県医師会)	県医師会では、災害救助のD-MATはかなり充実しているので、今度、食物アレルギー小委員会とD-MATの委員会で連絡をとって対応していくようお願いしていきたい。
鷺谷委員 (もぐもぐ)	一昨年、災害備蓄の関係で個人的にテレビ取材を受けた。私の特集の前に秋田市の備蓄について取り上げられていたが、秋田市ではアレルギー用食料備蓄について常備していないとの回答だった。高齢者用の食事の備蓄には力を入れているが、子どもや成人の食物アレルギーへの対応は全くしていないということだったので、秋田市を含め県全体としても検討いただきたい。
議長	非常に重要な指摘である。備蓄や現状を確認・把握し、この会でフィードバックしていくのがよいだろう。
河越委員 (県栄養士会)	2月下旬、日本栄養士会から食物アレルギーに対応した備蓄食品の配付があり、県栄養士会事務局で備蓄している。そのほか高齢者向け食事の備蓄もある。
議長	この協議会での話し合いにより、リソースのつながりが可能だというのが重要と感じる。災害への備蓄・対応などを整理するのがソリューションとなり、オプションになるのではないか。 これで「その他」は終了する。
議長	<b>【委員の自己紹介など】</b> 初めての会議であるので、自己紹介を兼ねて、それぞれの専門やアレルギー疾患との関わり、マインド、熱意などを順にお知らせいただきたい。
田口委員 (仙北市保健課)	母子保健担当として、日頃から乳幼児や妊産婦の健康支援に関わっている。子どものアレルギーを心配する方が多いが、情報が昔ながらのもので最新の情報を得ていない方が多いという印象。仙北市子育て包括支援センターでは、子育て情報の発信をしているので、アレルギーのことなども発信していきたい。この会議で得た情報なども参考にしながら取り組んでいきたい。
鷺谷委員 (もぐもぐ)	もぐもぐの会は、食物アレルギーのある子どもを持つ親が集まり平成24年に創立。これまでスギッチファンドの助成を受けるなどして、4回の講演会等イベントを開催している。県の遊学舎の防災の講演会にも招かれ参加した。 当会はもともと、小学校の給食でアレルギー対応をしてもらえなかったことをきっかけに声を上げ活動を始めたが、保育園や幼稚園、学校等の、行事はこのように大変だったなど、皆で情報共有をし、相談や話し合いをしている。 過去の講演会では千葉先生にも講師をしていただいたが、この協議会を通して皆さんに協力いただきながら、活動を推進していきたい。
河越委員 (県栄養士会)	現場にいた頃は、秋田市内の学校給食の栄養士をしていた。平成24年に東京都の小学校で事故があってから、国・県・市などで、体制整備などされてきたが、保育園や幼稚園等では、生活管理指導

<p>小松委員 (県薬剤師会)</p>	<p>表などについて保護者に伝えることや学校での保護者との対応は難しいと感じていた。</p> <p>災害時対応など、県栄養士会としても考えていかなければならないと思っている。</p> <p>9月には県栄養士会の研修会で千葉先生に食物アレルギーの講師をしていただく予定。食物アレルギーが重篤な事故にならないよう、今後とも皆さんと情報共有しながら進めていきたい。</p> <p>今日の先生方のお話には、呼吸器、小児科、眼科、耳鼻科、皮膚科があり、薬局はそういった全ての方に目の前で対応している。治らないと難儀している方も多いので、そういう方々のために先生方のお話を伺いながら県薬剤師会としてできることを協力していきたい。</p> <p>学校薬剤師として、学校やこども園等にも関わっているので、そちらの方面でも協力していきたい。</p>
<p>高橋委員 (県医師会)</p>	<p>小児科医で2001年にクリニックを開業した。病院に勤務し、その後開業しているので、食物アレルギーについてはアップデートしながら対応しているところ。</p> <p>県医師会の乳幼児委員会では、去年は食物アレルギーを専門とされている昭和大の今井先生に講演に来てもらい、皆さんの知識もかなり広がったと思う。去年はアレルギーがテーマだったが、今年の講演会はコロナ、その前は発達障害。いつもアレルギーをテーマにするわけではないため、なかなか専念できないところはある。</p> <p>学校と保育園等では県医師会の担当理事も異なっていて、学校は教育委員会と交渉すれば行き渡っていくが、保育園等は経営母体も様々、園医も小児科医ではなくその地域の先生が務めていることもあり、考え方が統一されていないということがある。医師会には各科の先生方の考え方もあり、園医は小児科医が、と言っていくことも難しい。今後さらに対応を検討していきたい。</p> <p>大人のアレルギーについての検討や普及に関する委員会はないので、こういうものをつくったらといった要望があれば理事会に話していきたい。</p>
<p>植木委員 (秋田大学大学院)</p>	<p>学生の頃、小児ぜん息キャンプに行っていたことを思い出した。自分もぜん息持ちだったこともあり、興味があって大学ではアレルギーの研究もしていた。</p> <p>今は総合診療部にいる。たまにしかないのだが特に困っているのが化学物質過敏症と言われてくる大人の方。如何ともし難く、たらい回しにされて来る。実際のところ難しいが、秋田大学病院が拠点病院になるからには、うまく連携して一つひとつの問題に対処できればと思う。</p> <p>市民公開講座も毎年開催しているので、皆さんと連携して上手くやっていければよい。</p>
<p>河野委員 (秋田大学大学院)</p>	<p>本日は大変勉強になった。皮膚科ではアトピー性皮膚炎の患者が多くいるが、色々な薬が出てきてコントロールできるようになってきた。</p> <p>アトピー性皮膚炎などアレルギーに関して、皮膚から色々な物質が感作されて様々なアレルギーを起こすのだろうと言われてきて</p>

	<p>いる。花粉症やぜん息の一部、食物アレルギーも赤ちゃんの皮膚炎が関係しているのではなど、エビデンスが出てきているので、皮膚科でもアトピー性皮膚炎の病気の話だけではなく、スキンケアの指導などで皆さんのお役に立てればよい。</p> <p>私自身は、大学院生のとき遺伝病を研究していた。アトピー性皮膚炎など皮膚のバリアに遺伝子も関係があるということで、アトピー性皮膚炎も研究するようになったので、そういうところでもお役に立てればよい。</p>
<p>山田委員 (秋田大学大学院)</p>	<p>アレルギー性鼻炎だけでも罹患率は50%を超えているので、患者はもっと増えていくと思われる。</p> <p>今日は食物アレルギーがキーワードだと感じた。乳幼児のこと、アトピー性皮膚炎などわかっていないので今後の課題だと思っている。</p> <p>鷺谷さんも大人で食物アレルギーがあるとのことだった。最近日本アレルギー学会の長期計画委員会があったが、大人の食物アレルギーについて知られていないので、よく調べないといけないということで課題になっている。</p> <p>災害時の食物アレルギーへの対応を考えること、ほかに消化器の先生も内視鏡でアレルギー診ていく時代になるのではと思っているので、内科の消化器の先生にもアレルギーに関わってもらえたらよいと思っている。</p>
<p>早川委員 (秋田厚生医療センター)</p>	<p>眼科のアレルギー専門医は全国で20～30人しかいない。患者は非常に多く、アレルギーに興味のある眼科医も多かったが、関係団体は3～4年前まで日本アレルギー研究会という研究会に留まっていた。眼科学会でも危機感があり、2～3年前から研究会が眼科アレルギー学会に格上げされ、アレルギー専門医をつくっていくという流れになっている。</p> <p>私は大学院で免疫を研究していた関係で、植木先生のところで勉強し専門医をとった。今後も大学に働きかけて専門医を育てていきたい。</p>
<p>千葉委員 (中通総合病院)</p>	<p>本日は様々な関係の方とつながることができ、色々な問題や情報を共有でき、非常に意義のあるものだった。</p> <p>3月になると全国的にも多くなるのが、食物アレルギーが治らず高校生・大学生になり、県外に転出・転入すると大人のアレルギーを診てくれる病院がなく、紹介先に困ること。いつもこの時期に思うことである。そういった大人のアレルギーを診ることのできる環境をつくっていくことも将来的に必要なだと思っている。</p>
<p>議長 (中山会長・秋田大学大学院)</p>	<p>COPD(慢性閉塞性肺疾患)・ぜん息を専門としている。</p> <p>身内で食物アレルギーを発症した人がいる。そのことを通じて食物アレルギーが重要だということは実感している。</p> <p>アレルギー疾患は現代病で、感染症や寄生虫が減った分、逆に増えているので、社会システムとして皆で考えていくことが重要である。</p>
<p>議長</p>	<p>本日は、皆さんのお話や食料の備蓄など、リソースが見つかる</p>

	<p>ということがわかったので、有意義な会が立ち上がったと思っている。</p> <p>これで本日予定していた議事は終了したので、協議を終了する。</p>
<p>事務局</p>	<p><b>6 その他</b></p> <p><b>【メーリングリストの作成について】</b></p> <p>委員同士や事務局を加えた情報交換、情報共有に活用いただけるようメーリングリストを作成し、皆さんとメールアドレスを共有したいが、いかがか。</p> <p>(拍手をもって同意)</p> <p>それでは、事務局に提供いただいたアドレスでメーリングリストを作成することとする。</p> <p>本日の意見等を踏まえ、来年度のアレルギー疾患医療拠点病院の指定に向けて、必要な手続きを進めていく。</p> <p>引き続き協力をお願いしたい。</p>
<p>事務局</p>	<p><b>7 閉会</b></p> <p style="text-align: right;">以上</p>